

「経験を生かして学校・市・地域を繋ぐ」

皆さんはじめまして。4月1日より、かほ市地域おこし協力隊として、「仁賀保高校魅力化プロジェクト」に携わります。越智めぐみと申します。

出身は広島県東広島市です。100円ショップのダイソー本社や、日本三酒蔵（伏見、灘、西条）のある町で育ちました。大学卒業後は広島県や兵庫県など、西日本の塾で小・中・高校生を対象に学習指導に携わってきました。



▲地域の魅力を一緒に考えよう！

そんな私が東北にきたのは、前職の福島県只見町の地域おこし協力隊の経験がきっかけでした。山間地域と都会での学習機会の差の大きさに直面し、教育で様々な地域を盛り上げたい！と思い、只見町の公営塾の講師として2年半、教育委員会の職員として3年間勤めました。そこで、もっと多くの地域の教育事情について関わりたい、そして地域と地域を繋げ、お互いに発展していける地域づくりをしたいという思いから、かほ市とのご縁につながりました。

ずっと山の近くで過ごしてきたため、日本海を間近に感じられるかほ市での生活はとても新鮮です。日によって穏やかだったり荒々しかったりする日本海の表情の変化を楽しんだり、新鮮な海の幸を味わって

ます。

仁賀保高校では、地域コーディネーターとして主に総合的な探究の時間のお手伝いをします。地域の魅力を知り、それを伝え、地域のことを自分事として考えられる高校生を育てられるようお手伝いしていきます。

まだまだ分からないことばかりですが、どんどんチャレンジしていきたいと思っています。そして、どんな市内のいろいろな場所に飛び込んで、皆さんと積極的に関わっていきたく思いますので、皆さんこれからどうぞよろしくお願いたします。



越智めぐみ

Ochi Megumi

勤務先：仁賀保高校

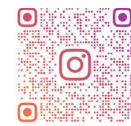
出身地：広島県



仁賀保高校 にかほ市学習センター

—きっとある ここにある 君の居場所—

生徒一人ひとりの学習習慣の定着と進路実現をサポートする「にかほ市学習センター」が仁賀保高校生を対象にオープン。放課後、君の居場所をここで探そう！



NIKAO_GAKUSHU
公式インスタグラム



行財政改革集中期間

■これまでの行財政改革

令和8年度からの3カ年を行財政改革集中期間とします。公共施設の再編から事務事業の見直しまで、原則、聖域を設けることなく改革を進めて参ります。これまでも市は、20年にわたり「行財政改革大綱（5カ年）」に基づいて改革を進めてきました。たとえば、公共施設の再編として、旧小学校施設の再活用や解体を進めてきましたし、他の公共施設についても、利用率が低く老朽化が著しいものについては、代替施設の有無などを吟味しながら休止・廃止を進めてきました。ただその際には、不文律ながら、市民生活に大きな揺れを引き起こさないよう「緩やかなスピード」で進めていくといった配慮がなされてきました。これまでの行財政改革が計画の目標値になかなか到達できずにいたのは、この様に限られた予算の中で有利な財源を探しながら、「緩やかなスピード」で進められてきたことも理由の一つです。

■集中期間の背景

昨今の混沌とした世界情勢や人口減少による社会問題の複雑化などさまざまな状況の激変は、これまでの当たり前を大きく変えました。特に、バブル崩壊から30年以上続いたデフレの終焉はこれまでの価値観を180度転換させました。

どういうことか。簡単に言ってしまうと、上続いてきた「今年100万円だった事業は来年も100万円できる」といった時代が終わったということです。中

もここ2、3年の変化は著しく、物件費、燃料費、人件費などの経常経費の上昇は、財政のみならず企業会計や家計などすべてを圧迫しています。たとえば人件費の上昇を、旧町から現在の市役所までの高卒初任給（100円以下は切捨）の推移を例としてみます。

平成元年の高卒初任給は10万2千円、平成30年のそれは14万6千円でした。平成元年から平成30年までの30年間での高卒初任給の上昇額は約4万4千円だったことがわかります。

これに対し、令和8年度の高卒初任給は20万8千円です。平成30年からみて約6万2千円も高くなっています。これは令和6、8年の3カ年に急上昇したからです。つまり、過去30年間よりも直近3カ年の引上げ額の方が大きくなっているのです。ここからも最近の賃金や物価上昇の大きさを知ることができます。

■潮目が変わった

にかほ市発足時の暗黙の約束事には「サービスは高く、負担は低く」がありました。他の自治体と詳細を比べてはいませんが、県庁出身の前副市長が8年前の予算査定時に「にかほ市の一つ一つのサービスは確かに手厚いです。しかし市の規模からして、背伸びし過ぎていると思います」と話してくれたことを思い出します。

これまでの市の財政状況は健全に推移してきました。令和6年度の財政健全化比率も国の「早期健全化基準」を大きく

下回っています。

「ではなぜ行財政改革に急いで取り組むのか」。先ほどから述べているように、さまざまな情勢の変化により大きく潮目が変わり、「もはや安穩としてはいられない、余力があるうちに改革をしなければならぬ」と判断したからです。

■行財政改革の目的

いろいろな人に改革の必要性をお伝えすると、みなさん「大切だ、やらねばね」と賛成してくれます。ただ、注意しなければならぬのは、総論は賛成でも各論になると納得できないことが出てくるということです。今回の改革を多くの人に理解し納得してもらうためには、「今あるそのサービスは本当に適切なのか」といった原点にまで立ち返って改革の理由を説明する必要があります。

今あるサービスのすべてを残していくことはもはや無理です。ですが、そのサービスをまったく無くすということもできません。今回の行財政改革に「改革のための改革」の側面が無いとは言いませんが、それも改革の先に「にかほ市の持続的発展」という目的があることを理解していただきたいと思えます。



にかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

